

「日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)」は、河川・流域再生に関わる事例・経験・活動・人材等を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい水辺再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的として、2006年11月に(財)リバーフロント整備センターが設立した団体です。また、「アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)」の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、同時に、アジアの素晴らしい取組みを日本国内に還元する役割も担います。

目次	Pages
➤ 年始のご挨拶.....	1
➤ JRRN 活動報告.....	2
➤ 会員寄稿記事.....	4
➤ 研究・事例の紹介.....	6
➤ 会議・イベント案内.....	7
➤ 冊子・ビデオ等の紹介.....	7
➤ 会員募集中.....	8

年始のご挨拶

JRRN 会員の皆様、2010年新年明けましておめでとうございます。会員の皆様には日頃より JRRN のネットワークの活動にご協力いただき感謝申し上げます。

JRRN の活動は、週2回のニュースメールの発信、月1回のニュースレターの発刊、河川環境ミニ講座の開催、河川再生現場の紹介や視察のサポートなどを中心に行っており、定着しつつあります。これに加えて、JRRN は ARRN (アジア河川・流域再生ネットワーク) 事務局として、昨年は KRRN (韓国河川・流域再生ネットワーク) の協力を得て、8月に技術委員会、情報委員会の開催、9月には国際フォーラムの開催、運営会議をいずれも韓国で行いました。

また、念願だった「アジアに適応した河川環境再生の手引き (ver.1)」が完成して、関係者に送付するだけでなく、昨年3月にトルコで開催された世界水フォーラムで配布することができました。引き続き、このマニュアルをベースにして、CRRN や KRRN の協力を得ながら、河川再生事例を追加するなど改訂版の作成を進めています。

JRRN は現在、個人会員が約400名、団体会員が13団体で、特に個人会員はこの1年で約100名増加しています。JRRN 事務局としては会員への情報提供や会員どうしが有意義な交流ができるように努力していきたいと考えています。

ネットワークは会員同士の情報交換の場であり、会員の自主的な情報提供や活動が重要であり、事務局の役割はこれをサポートするものです。このため、ネットワークのメリットを理解していただけるような工夫をしていきたいと思えます。

昨年来の国内外の社会情勢はきわめて厳しいものがありますが、これを消極的に捉えるのではなく、このような時こそ、既存の考えやシステムに頼るのではなく新しい流れの芽を見つけて育てていく必要があると考えています。

JRRN は皆様の協力を得て、多くの課題を乗り越えて河川再生の発展に貢献できるように努力していきますので皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

JRRN 事務局長 佐令純造

JRRN 活動報告(1)

2009 年の JRRN/ARRN 活動概要報告

2009 年の JRRN 及び ARRN に関わる主な活動を表 1 に整理させて頂きました。

昨年は、河川再生に関わる国内外の情報・技術蓄積と会員間での共有を最優先に、JRRN ウェブサイトの充実化や河川再生手引き作成を行いました。また、日本で培った河川再生に関わる技術の普及と国際貢献を目的とした海外関係機関の技術研修や国内現地視察支援を多く受け入れたのが特徴的でした。一方で、国内向け講演会等を豊富に開催することができなかった点は反省材料であり、2010 年は JRRN 会員皆様の交流と知見共有を目的とした行事を多く開催して参ります。

また、JRRN が事務局を担う ARRN の諸活動を、2007 年は日本、2008 年は中国、そして昨年は韓国を中心に開催し、特に韓国関係機関との協働の機会が増え、技術交流や親交を深めることができました。

2010 年も更なる情報循環と双方向の人材交流を目指し様々な活動を企画していきたいと思ひます。



香港土木開発部支援(2月)



第3回 JRRN ミニ講座(5月)



韓国河川協会来日支援(6月)



世界都市水フォーラム講演(8月)



第6回 ARRN 国際フォーラム(9月)



中国湖北省水利庁技術交流(11月)

表 1 2009 年の JRRN/ARRN 事務局の主な活動

活動種類	活動内容
情報共有 基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> JRRN/ARRN 年次報告書 2008 (1月) JRRN ホームページ運営(日本語・英語) JRRN メールマガジン発行(週2回) JRRN ニュースレター発刊(月1回) ARRN ニュースレター発刊(7・12月)
行事開催	<ul style="list-style-type: none"> 第3回 JRRN 河川環境ミニ講座「環境流量からみえるアジアの風土性」(東京・5月) 第6回 ARRN 水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム(韓国・9月)
技術蓄積 がイノベーション	<ul style="list-style-type: none"> 「アジアに適応した河川環境再生の手引き ver.1」発刊、第5回世界水フォーラム等で配布(3月) 国内水辺再生事例(約200事例)収集及び JRRN-web 公開(日本語・英語)
ネットワーク 運営	<ul style="list-style-type: none"> 第2回 ARRN 情報委員会(韓国・8月) 第2回 ARRN 技術委員会(韓国・8月) 第4回 ARRN 運営会議(韓国・9月) JRRN 事務局定例会議(週1回)
研修支援 (講義・ 視察)	<ul style="list-style-type: none"> 香港特別行政区土木開発部(2月) パキスタン連邦洪水委員会～JICA 国別研修(5月) 韓国河川協会視察団(6月) 台湾経済署水利部(7月) 中国湖北省水利庁(11月)
技術交流 及び 広報活動	<ul style="list-style-type: none"> 会議・学会等での講演、参加(3回) 第5回世界水フォーラム(トルコ)参加(3月) 世界都市水フォーラム WCWF2009(韓国)講演(8月) 第17回リバーフロント整備センター研究所報告会(東京)講演(9月) 国内外関係機関との意見交換・PR 活動(韓国) 韓国河川協会(6・8・9月)・韓国建設技術研究院 KICT(8・9・12月) (中国) 中国水利水電科学研究院(9月)・大連理工大学水環境研究所(11月) (台湾) 台湾水利規劃試験所(3月) (その他) ヨーロッパ河川再生センター(3月)

(JRRN 事務局 和田彰)

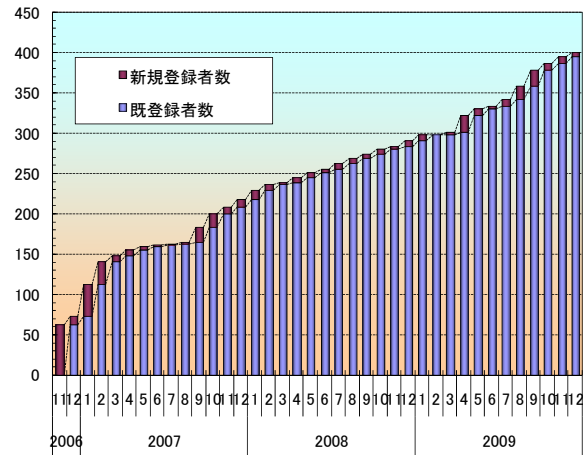
JRRN 活動報告(2)

個人会員が 400 名に達しました

2006年11月にJRRNが設立されてからほぼ3年が経過しましたが、昨年12月末にJRRN個人会員数が400名に達しましたのでご報告致します。

2007年に約150名、2008年には約70名、そして昨年には約110名の方々に新規入会を頂き、会員構成内訳では、民間企業に所属する実務者が約半数、また行政関係者が20%、学生を含む研究者が15%、また個人を含む市民団体関係者が15%となっております。(8ページの図参照)

今後もJRRNの活動にご賛同頂ける多くの方々を募ると共に、合わせて河川再生に関わる国内関係団体との交流を深めながら、団体会員としてのご支援もよろしくお願いいたします。



JRRN 個人会員数の推移 (2006年11月以降)

JRRN 活動報告(3)

河川再生に関わる海外関係者との技術交流報告

■中国派遣訪問研究員との意見交換

2009年11月30日(月)、中国政府派遣訪問研究員の2名がJRRN事務局を訪問し、中国東北地方の水環境、水循環、水資源、自然環境保全など、解決が求められている諸課題に関する意見交換を行いました。詳細は以下をご覧ください。

→ <http://www.a-rr.net/jp/info/letter/activity/1773.html>



■韓国建設技術研究院 (KICT) 研究員との意見交換

2009年12月21日(月)、韓国建設技術研究院 (KICT) の安主任研究員が来日され、日韓の河川環境再生事業に関する情報交換、及び東京都内の河川再生現地視察(荒川、旧中川、隅田川等)に関わるサポートを担いました。詳細は以下をご覧ください。

→ <http://www.a-rr.net/jp/info/letter/activity/1820.html>



会員寄稿記事(1)

第3回中国都市河川総合整備セミナー ～ 日本の多自然川づくりを紹介 ～

財団法人リバーフロント整備センター 河川・海岸グループ長 柏木才助 (JRRN 会員)

12月12日(土)、北京で「第3回中国都市河川総合整備セミナー」が開催され、中国全土から約260名の都市河川整備担当者が集まり、都市河川の環境整備、生態系再生などについて情報交換、討議を行いました。日本から、柏木が参加し、「日本の多自然川づくり、いいかわづくり」と題して、日本における生態系保全、再生の取り組み状況について紹介しました。

セミナーでは、索麗生水利部副部長が都市河川環境整備の重要性について講話し、また、董哲仁水利水電科学研究院教授が生態系に係わる自然的、社会的要素、再生に望む考え方について講演したほか、中国各地での取り組み事例が報告され、熱心な討議が行われました。

中国では、現在、河川生態系再生のための技術指針の検討を開始したところで、日本の多自然川づくりの経験、「多自然川づくりポイントブック」は大変参考になるものとして注目されました。

翌13日には、オリンピック記念森林公園における河川、湖沼、湿地等の形成現場の見学会が行われ、2日間のセミナーを終えました。次回は、来年、無錫市での開催が予定されています。

河川の生態系保全、再生に関する日中の交流が活発になり、この分野の発展に寄与することが期待されます。



写真1 セミナーの状況



写真3 公園内で形成された湿地



写真2 オリンピック記念森林公園

会員寄稿記事(2)

水辺からのメッセージ No.8

国土文化研究所 主任研究員 岡村幸二 (JRRN 会員)

晩秋の扇谷： 古来より芭蕉も訪れた松島四大観の眺望地、 二百六十余りの島々を望む



撮影：2009年12月

◆日本三景の松島

昭和27年に文化財保護法の特別名勝に指定され、面積9,718haの島々および周辺地区には高さ、外観・色彩、屋外広告物などの厳しい規制が設定されています。

◆「松島の月」を堪能した芭蕉

芭蕉の奥州への旅の最大の関心が松島であったことが、「おくの細道」からも推察されますが、その芭蕉があまりの月の美しさに心を奪われて、句作をあきらめたといわれています。

※国土文化研究所は、株式会社建設技術研究所のシンクタンク組織です。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

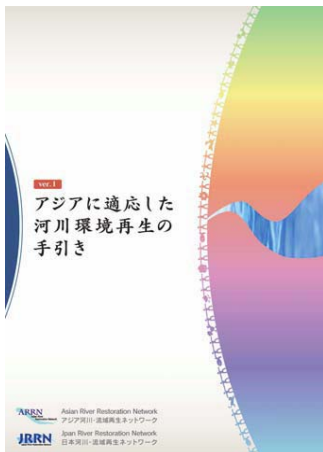
旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。(JRRN 事務局)

研究・事例の紹介

「アジアに適應した河川環境再生の手引き ver.2」作成に向けた取組み

ARRN では、活動の基軸として、アジア・モンsoon地域に相応しい河川再生の方法論の確立を目的とし（「第4回世界水フォーラム」分科会の提言に基づく）、ARRN が保有するネットワークを活用しながら”アジア河川再生手引き”の作成と更新及び普及に継続的に取り組んでいます。現在、ARRN 事務局を JRRN が担うため、本手引きの編集作業は JRRN 事務局が中心となり実施しています。

初版である「アジアに適應した河川環境再生の手引き ver.1（英語版・日本語版）」は既に完成し、2009年3月にトルコ・イスタンブールにて開催された「第5回世界水フォーラム」にて関係者に配布しました。



アジアに適應した河川環境再生の手引き ver.1

(JRRN会員特典として配布中。詳しくはこちらから→
<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/information/1223.html>)

現在は、2009年8月に開催したARRN技術委員会での議論を踏まえ、上記初版をバージョンアップした「アジアに適應した河川環境再生の手引き ver.2」の作成に向けて作業を進めているところです。2010年9月にソウルで開催される「第8回生態水工学国際シンポジウム」での配布を目先の目標とし、完成を目指します。

ARRN技術委員会で議論した「アジアに適應した河川環境再生の手引き ver.1」に対する要追加、改善項目は次の通りです。

- 河川に関する一般的な情報（用語の定義、各国の河川の特徴等）を充実化する。
- 伝えたいことを的確に表現する質の高い（事例）写真を豊富に追加する。
- 日本・韓国・中国の河川再生優良事例を均等に追加する。また、優れた事例のみならず、各国が抱える（困っている）河川再生上の課題に関わる情報・技術・写真も収集し手引きに反映する。
- 「情報」・「事例」に加え、「教訓」も含める。
- 河川再生全体の枠組み、基礎的概念（考え方）、具体方法論、及び用語を含む一般情報を含める。
- 日中韓以外のアジアの国々及び欧米の事例情報も追加する。

「アジアに適應した河川環境再生の手引き ver.2」では、一般向けの内容を充実させることを意識しながら、日中韓に共通する河川に関する一般的な情報や各国に特有の河川に関わる情報を追加します。また、「4章 良好な河川環境を再生するための方策」の項目に、各国の優良事例を追加することを中心として、日中韓の各 RRN 事務局で協力しながら更新作業に取り組んでいきます。

今後は、JRRN 会員皆様から意見を伺う場を設けるなど、ネットワーク全体で手引きの更新を行う環境を作りたいと考えています。

「アジアに適應した河川環境再生の手引き」の作成状況については、今後も JRRN ニュースレター等で継続的にご紹介させていただきます。

(JRRN 事務局 沼田彩友美)

会議・イベント案内 (2010年1月以降)

(ARRN・JRRN 主催・共催の会議・イベント)

特になし

(その他の河川再生・河川環境に関する主なイベント)

■大阪平野の水資源を考えるー大阪周辺の水環境とその有効利用

○日時：2010年1月9日(土) 13:00-17:30

○主催：(財)日本生命財団

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1762.html>

■第55回日本水環境学会セミナー「水辺の再生」

○日時：2010年1月22日(金) 9:55~16:45

○主催：(社)日本水環境学会

<http://www.a-rr.net/jp/event/04/1803.html>

■川の再生交流会～川の守り人全員集合～

○日時：2010年1月23日(土) 10:00~16:00

○主催：埼玉県

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1810.html>

■第140回 河川文化を語る会「流域から見た河川の望ましい河幅・断面形ー自然河川に学ぶ」

○日時：2010年1月26日(火) 18:00~20:00

○主催：(社)日本河川協会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1783.html>

■第五回「外来魚情報交換会」

○日時：2010年1月30日(土)・31日(日)

○主催：琵琶湖を戻す会

<http://www.a-rr.net/jp/event/02/1766.html>

■日本の「いい川」シンポジウム ～都市河川の多自然川づくり

○日時：2010年1月30日(土) 13:00~

○主催：多自然川づくり技術普及研究会 他

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1805.html>

■第141回 河川文化を語る会「メダカの生態に関する研究と啓発活動ー山口県立厚狭高等学校生物部での取り組み」

○日時：2010年2月15日(月) 18:00~20:00

○主催：社団法人日本河川協会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1767.html>

■荒川流域再生シンポジウム

○日時：2010年2月22日(日) 10:00~16:30

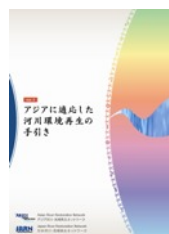
○主催：NPO法人荒川流域ネットワーク

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1823.html>

冊子・ビデオ等の紹介

■ アジアに適応した河川環境再生の手引き ver.1

- ・発行：アジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN)
- ・価格：無料



ARRN が今後作成を目指す「アジアにおける河川再生技術指針」の入門編として、非専門家の方々にも河川再生の意義やアプローチを理解して頂くことを目的に、写真や図を主体に平易な解説文を添えて作成致したものです。

本手引きをご希望される方は、「(財)リバーフロント整備センター企画グループ」までご連絡ください。送料のみご負担いただいた上で、無料で提供致します。
電話：03-6228-3860 / Fax：03-3523-0640

■ 観光まちづくりのエンジニアリング(2009.11発行)

- ・監修：安島 博幸
- ・著者：国土総合研究機構観光まちづくり研究会
- ・出版社：学芸出版社
- ・発行年月：2009年11月
- ・価格：¥1,995円(税込)
- ・ISBN：978-4761512651



本書では、観光振興と環境保全の両立の視点から、持続可能な観光まちづくりに役立つ技術的な知識として、交通計画や水環境保全、景観整備等が分かりやすく解説されています。河川・水辺景観を活かした観光振興についても紹介されています。なお、本書はJRRN会員も分担執筆されています。

会員募集中

■ JRRN の登録資格 (団体・個人)

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。
市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川環境の整備・改善に携わるすべての方々のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

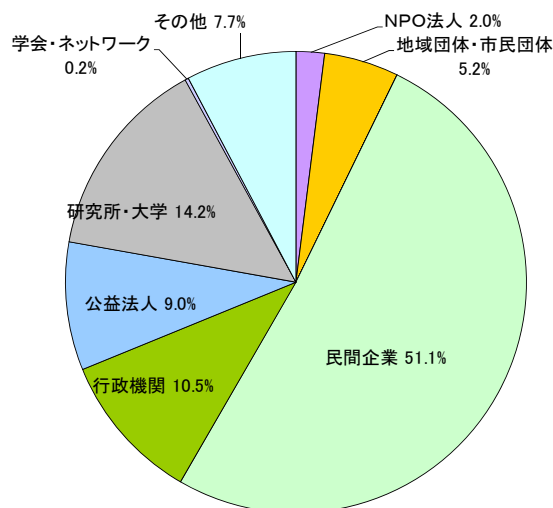
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川環境に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週に1回～2回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/info/member.html>



2009年12月31日時点の個人会員構成
(個人会員数：403名、団体会員数：13団体)

JRRN 会員特典一覧表 (団体会員・個人会員)

JRRNが提供するサービス		JRRN 団体会員	JRRN 個人会員	非会員 (一般の方)
1	ホームページへのアクセス及び各記事へのコメント入力 ^{※1}	◎	◎	◎
2	ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ^{※2}	◎	◎	◎
3	ニュースメール(週2回)の配信 ^{※3}	◎	◎	×
4	Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ^{※3}	◎	◎	×
5	JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ^{※4}	◎	◎	×
6	国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ^{※5}	◎	◎	×
7	ホームページ「最近の話題・ニュース」及びニュースメール「会員提供情報」欄で団体が関わる行事や出版、技術や製品等の案内の掲載 ^{※6}	◎	△ ^{※7}	×
8	ホームページ「会員登録」「人・組織のつながり」欄及び年次報告書内で団体名の掲載	◎	×	×
9	ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ^{※8}	◎	×	×
10	JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ^{※9}	◎	×	×

【発行・問合せ先】



日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN) 事務局
財団法人リバーフロント整備センター 企画グループ 内
〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 ロフテー中央ビル7階
Tel: 03-6228-3860 Fax: 03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net URL: <http://www.a-rr.net/jp/>